

令和7年度 学校評価(関係者評価)シート

学校名	加古川市立神吉中学校
-----	------------

1 教育目標	こころ豊かで自ら考え行動する生徒の育成
---------------	---------------------

2 基本方針	<p>めざす学校像</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇生徒にとって「自分のよさを生かして可能性にチャレンジできる学校」 ◇保護者にとって「信頼できる学校」 ◇教職員にとって「働きがいのある学校」 	<p>めざす生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分のよさや可能性を追求し、夢や志を持って努力する生徒 ◇自ら考え、判断し、主体的に行動する生徒 ◇あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、互いに認め合い、支え合い、高め合う生徒 ◇多様な人々と協働しながら、社会の一員として行動できる生徒
---------------	---	--

3 指導目標	<p>1 「心の教育」の充実</p> <p>2 「未来を切り拓く力」の育成</p> <p>3 「生徒一人一人のよさや可能性を引き出す教育」の推進</p>	<p>4 個に応じた指導・支援の充実</p> <p>5 保護者や地域との連携・協働</p>
---------------	--	---

評価基準

A:できている

B:だいたいできている

C:あまりできていない

D:できていない

E:わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策
1 「心の教育」の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちや心を大切にする教育の推進 ・互いに認め合い、支え合い、高め合う学級づくり ・多面的な生徒理解を基盤とした一人一人が大切にされる教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談等により生徒の内面理解に努める。 ・生徒が相談しやすい環境づくりに努める。 ・SC、SSW、MSなどの専門スタッフと連携する。
2 「未来を切り拓く力」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり ・ICTの効果的な活用による情報活用能力及び情報モラルの育成 ・生徒の主体性を育む教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用端末等の効果的な活用(スタディサプリの導入等)を推進する。 ・生徒会活動の充実等により生徒の主体性を育む。
3 「生徒一人一人のよさや可能性を引き出す教育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる教育活動を通した「達成感」や「自己肯定感」「自己有用感」の醸成 ・学びの過程を大切にする、きめ細やかな教育の実践 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般において、達成可能な目標の設定や、生徒の主体的な取組により、生徒の達成感、自己肯定感、自己有用感を醸成する。
4 個に応じた指導・支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実 ・関係機関や保護者との連携による不登校支援の充実 ・学びやすい学習環境の整備及び多様な学びの場の提供 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「チーム学校」として、組織的に支援する。 ・市教委等との連携により、個々の生徒の実情に応じた多様な学びの場を提供する。
5 保護者や地域との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域への積極的な情報発信による、開かれた教育活動の推進 ・学校運営協議会を中心とした、地域とともにある学校づくり ・PTA活動との連携による、よりよい教育活動の実践に向けた協力体制の確立 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや学年通信等により、生徒の活動の様子、学校行事の案内などを積極的に発信する。 ・授業参観やオープンスクール等、学校の教育活動を保護者に公開する機会を充実させる。

自己評価の適切さ(関係者評価)	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSによるトラブルが心配される。啓発に向けた講習会等を充実させてほしい。 ・個々の生徒が抱えている環境や要因を踏まえた対応を今後も心がけてほしい。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心を引き出す教育をさらに推進してほしい。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動が担ってきた教育効果は多大なものである。地域展開後も、子どもたちが自分を高める場を充実させてほしい。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ・不登校に至っている要因は多様である。保護者との連携、関係機関や地域の教育力の活用により、居場所づくり等に取り組む必要がある。 	B
<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーンを見ていない保護者が一定数いるのではないかと。自治体から送られてくる文書が多く、学校から、様々な情報が発信されているが、たくさんの方の文書の中で埋もれてしまっているのではないかと。 	A